

5 井崎 好信 議員

予定時間 60分

1. 農業の振興について（総合計画 第3章第1節）

町 長

- (1) 嘉瀬川からの農業用水については、3年連続の取水制限となった。今年は特に、田植え後の7月10日には嘉瀬川ダムの貯水率が12.1%ととなり、農家は干ばつ被害への不安を多く抱いたところである。現在の嘉瀬川ダムの状況について問う。
また、農家の方々が来年度産水稻への不安を解消できるよう、関係機関と調整を行う必要があるのではないのか。
- (2) 平成30年度産のイチゴ栽培については、高生産・高収益であったと思われる。佐賀県では、新品種の（いちごさん）の栽培を奨励されPR活動に力を入れられているが、本町における栽培計画について問う。
- (3) 転作作物である大豆の収量アップと排水対策の目的で、額縁明渠を施工される圃場に対して10アール当たり2,000円の補助金が交付されることとなっている。事業の推進のために、溝堀機械に対しても助成ができないのか。
- (4) 新規就農者を支援する目的である国の農業次世代人材投資事業の今年度予算が減額されているとの新聞報道があった。本町への影響について問う。
- (5) 地盤沈下対策事業により整備された水路やその法面の崩壊、カマチの崩れ、水路底の汚泥の蓄積など多く見受けられる。これから施設の機能保全と適切な維持管理には、多額の費用を要すると考えられるが、どのような対策を検討しているのか。

2. 空き家バンクについて（総合計画 第1章第1節）

町 長

- (1) 空き家の所有者に対する空き家バンク事業の周知について問う。
- (2) 空き家バンクに登録できていない空き家も多く見受けられる。空き家バンクとして利用できない物件においては、空き地バンクとして取り組むことも可能ではないのか。（住宅等を建築したい人が宅地として購入できる）

6 溝口 誠 議員

予定時間 60分

1. 災害に強い環境整備について

(総合計画 第1章第2節)

町 長

- (1) 外水氾濫対策のため、六角側上流に調整池が整備される旨の報道があった。その事業における本町への効果について問う。
なお、当該事業と併せて本町も排水対策に係る事業に取り組む予定はないのか。
- (2) JR長崎本線鉄道橋（六角橋）付近の堤防の改修について問う。
- (3) 内水氾濫対策は、これからどのように行っていくのか。
- (4) 防災ハザードマップが各家庭に配布された。これを有効活用するため、マイ・タイムライン（個人・家庭）を作成していただくよう推進が必要ではないのか。

2. 国民健康保険事業の安定運営について

(総合計画 第2章第4節)

町 長

- (1) 特定検診の受診の現状と受診率向上への取組みについて問う。
- (2) 保険者努力支援制度における目標（特定検診受診率70%、指導45%）の達成に向けて、どのように取り組んでいくのか。
- (3) 来年度の国民健康保険の保険税率の見通しについて問う。

7 吉岡 英允 議員

予定時間 60分

1. 観光の振興について

(総合計画 第3章第3節)

町 長

- (1) 6月1日にオープンした「道の駅しろいし」は、本町活性化の拠点として注目され、大いに期待されている。施設には、情報発信スペースを設置してあるが、情報発信への取組みと観光拠点としての機能について問う。
- (2) 本町の基幹産業は農業であり、観光を推進していく上においては、観光農園や観光農場の立地は必然であると考え。これからの考えと取組み姿勢について問う。
- (3) 須古地域に所在する小島城跡(男島城)は、城跡に登れば四方を見渡せることができるようになっている。これから、物見櫓などを設置することで、戦国ロマンを感じることができる観光スポットとして売り出すことができるのではないのか。

2. コミュニティタクシー運行事業について

(総合計画 第1章第3節)

町 長

- (1) 本町のコミュニティタクシー運行事業については、交通弱者の地域生活の向上のため寄与しており、周辺市町にも引けを取らない良い事業の仕組みであると思われる。現在における利用実績と課題について問う。
- (2) 平成22年7月から、現行の定時路線型とデマンド型を組み合わせた運行とされているが、町民や利用者からのニーズをどのように汲み取り、運行に反映させているのか。
- (3) デマンド型(予約制いこカー)の利用できる区域(エリア)が定められているため、目的の病院への通院、お見舞いなどに際し利用できるようになれば大変助かるとの声を多く聞く。利用者のニーズを詳細に把握するとともに、まずは試験的(期間を定めるなど)に現行の区域外へ利用ができるよう運行を行ってみるべきではないのか。

8 重富 邦夫 議員

予定時間 60分

1 農業の振興について（総合計画 第3章第1節）

町 長

- (1) 全国的に、農業従事者の高齢化や生産資材の値上がりが続くなど、農業情勢は大きく変化している状況である。佐賀県では、さが園芸生産888億円推進事業が、今年度から4箇年計画で実施されているところである。革新的技術の導入による先導的な農業者や、新たな園芸農業者の育成などを行うこととされて、高い目標を掲げてある。

農業が基幹産業である本町は、この事業をどのように受け止めているのか。

また、これからの農業の振興、園芸生産の拡大と経営力の向上などにこの事業をどのように活かしていく考えなのか。

- (2) 農業分野の人材支援等について問う。
(たまねぎ収穫時の労働力不足など)
- (3) 佐賀県においても、県産和牛の高品質化や生産性の向上と併せて、販路拡大・輸出促進にも取り組まれている。
なによりも、畜産農家の経営安定策が重要であると考えますが、畜産施設の衛生管理や家畜の健康管理などについては、行政側の支援体制が大切だと考える。この支援策について問う。
(獣医師の偏在など)